

2013年5月10日

2012年度決算と2013年度経営計画について

 **新日本空調株式会社**
代表取締役社長 高橋 薫

1. 2012年度総括について

世界経済は、米国景気の回復期待や欧州債務問題解決への動きが混迷する中、頼みの新興国の成長にも陰りが見え始め、日本経済においても世界需要の減退による輸出企業の不振に歴史的な円高が追い打ちをかける形となりました。

そのような状況の中、当社は中期経営計画の初年度であった2011年度における成果の一層の進展を目指し、「新日空 中期経営計画」(2011～2013年度)の2年目をスタートさせました。

引き続き、「社会貢献と企業価値の向上」をキーワードとし、

- ① 顧客ニーズに応える全社一丸体制の推進
- ② 中核独自分野での事業推進力の向上と新成長分野への積極投資
- ③ 経営資源の最適活用とコーポレートガバナンスの追求

という三つの基本課題を掲げております。

その2年目である2012年度ですが、依然として熾烈な企業間競争が続いている中で、採算性と事業成長性を見据えた戦略受注にも取り組んだ結果、**受注工事高は905億9千1百万円(前期比6.4%増)、完成工事高は855億5千3百万円(前期比7.4%増)**となりました。

利益面におきましては、グループ全体での原価低減による利益創出と固定費の削減努力の結果、**完成工事総利益は80億5千6百万円(前期比8.8%増)、営業利益は22億3千万円(前期比16.4%増)、経常利益は24億5千7百万円(前期比16.5%増)、当期純利益は13億2千2百万円(前期比63.0%増)**となりました。

前年度との比較において、受注高、完工高、当期純利益の増加に加え、繰越高も11.5%の増加となり、社内目標としておりました「増の四冠」を昨年度に引き続き達成し、**2期連続の「増の四冠」達成**となりました。

このことは、単に昨年度対比で業績が進捗したことのみならず、『持続的成長発展』の基盤を作り上げることができたことの現れと考えている次第です。

2012 年度決算のポイントとしては、次の三つが挙げられます。

① 「随処作主の一丸体制」による受注・利益創出活動

- ・ 随処作主の精神と組織活動とを融合の定着化
- ・ 営業、技術、購買の三位一体活動や、重要な事業パートナーである協力会社を含めた「チーム SNK」による改善提案、徹底した原価低減活動の共有化
- ・ 筋肉質な体制作りの推進

随処作主の精神と組織活動とを融合させるためのポイントを『会社力要諦10項』として取り纏め、その浸透を図ってまいりました。これは人的資源を含めての企業の足腰の強さとも言えるべきもので、この精神の定着が図られたものと考えています。

その結果、現在の厳しい経済状況下における利益面での大きな成果が出たと考えています。

② 「質と量のバランス」を見極めた受注戦略

- ・ 新築・リニューアル、保健・産業各分野のバランスのとれた受注
- ・ 案件の将来性や、お客様との持続性、また、先端分野や新規分野へのチャレンジ、採算性などの見極めた受注活動
- ・ 戦略的受注分野への営業強化

営業を推進する対象につきましては、その将来性から戦略的に受注活動を行う分野を「食品」、「医療・医薬」、「データセンター」と定め、従来からの当社の得意分野である「電子デバイス」と共に、単に目先のボリュームや利益額のみには偏らない「質と量のバランス」の意識を現場と経営サイドとで十分に共有した上で受注活動を行ってまいりました。

その結果、「食品」で 35 億円(前年比 3.7 倍の増)、「医療・医薬分野」で 78 億円(31.5%の増)、「データセンター」で 45 億円(14.4%の増)となりました。

また、電子デバイス分野におきましても前年比 58.3%増と順調に受注を伸ばしており得意分野での強みも発揮できました。

③ 海外分野での着実な事業深耕

- ・ 各現地法人の営業黒字化
- ・ 優位性の高い技術および品質
- ・ 人材の育成強化

シンガポール現地法人は、海外では当社として初となるデータセンターを受注し、今後の海外での展開が期待できます。

上海現地法人は、尖閣問題を発端とする反日運動があり、中断・中止を余儀なくされた案件もありましたが、最終的には前年より受注・完工・利益とも伸ばしております。

スリランカ現地法人は、スリランカ国内の治安が安定したことも有り、ホテルなどの受注を伸ばし営業利益も黒字に転換しました。

【 2012 年度 受注実績 】

(単位:百万円)

分野区分		2011 年度	2012 年度	前年比
個別	国内 新築	25,157	27,808	(+10.5%)
	一般 リニューアル	44,486	46,677	(+4.9%)
	原子力	8,346	8,496	(+1.8%)
	海外	-	-	-
連結 子会社	新日空サービス	2,899	2,491	(△14.1%)
	海外現地法人	4,235	5,118	(+20.8%)
連結受注高		85,125	90,591	(+6.4%)
新築分野		28,357	34,198	(+20.6%)
リニューアル分野		56,768	56,393	(△0.7%)
保健分野		47,095	50,216	(+6.6%)
産業分野		38,029	40,375	(+6.2%)

【 2012 年度 損益実績 】

(単位:百万円)

勘定科目	2011 年度	2012 年度	前年比
連結完工高	79,640	85,553	(+7.4%)
連結完工総利	7,406	8,056	(+8.8%)
	9.3%	9.4%	
販売費及び一般管理費	5,490	5,825	
	6.9%	6.8%	
営業利益	1,915	2,230	(+16.4%)
	2.4%	2.6%	
経常利益	2,108	2,457	(+16.5%)
	2.6%	2.9%	
当期利益	811	1,322	(+63.0%)
	1.0%	1.5%	

2. 2013年度経営計画について

1) 当社を取り巻く環境

建設投資の2013年度は復興事業や、金融緩和による景気回復により、前年度比7.7%増の47.3兆円が見込まれております。その中の民間非住宅建築投資額は、7.7兆円と前年比4.7%の増加が見込まれるなどやや明るい兆しが出てきております。

一方で、現段階では円安・株高により市場心理は大幅に改善しているものの、企業の設備投資に関しては依然慎重論も根強く、当面は予断を許さない状況が続くものと予想されます。

以上を踏まえて当社の2013年度の基本方針としては、徒に目先の景況感に振り回されることなく、空調を中核とする設備分野のリーディングカンパニーとして着実な発展を図ることと考えております。

2) 2013年度経営計画

① 顧客ニーズに応える全社一丸体制の推進

- ・ ワンストップソリューション戦略の更なる強化
- ・ 東日本大震災復興への積極対応

② 中核独自分野での事業推進力の向上と新成長分野への積極投資

- ・ アジアでの事業深耕と事業遂行力の向上
- ・ 原子力分野における事業推進
- ・ ビジュアルソリューションの事業深耕
- ・ 技術の維持と高度化に向けた積極投資

③ 経営資源の最適活用とコーポレートガバナンスの追求

- ・ 人材の育成と活用
- ・ コーポレートガバナンスの追求
- ・ 経営資源の最適活用

の三つを基本課題として継続して掲げ、「社会貢献と企業価値の向上」を目指します。

3) 受注計画

(単位:百万円)

分野区分			2012年度 計画	2012年度 実績	2013年度 計画
個別	国内 一般	新築	25,000	27,808	28,000
		リニューアル	46,000	46,677	48,000
	原子力		8,000	8,496	8,000
連結 子会社	新日空サービス		3,000	2,491	3,000
	海外現地法人		5,000	5,118	5,000
連結受注高(合計)			87,000	90,591	92,000

4) 完工計画

(単位:百万円)

分野区分			2012年度 計画	2012年度 実績	2013年度 計画
個別	国内 一般	新築	24,000	23,809	26,500
		リニューアル	46,000	47,666	48,000
	原子力		8,000	6,850	7,500
連結 子会社	新日空サービス		3,000	2,615	3,000
	海外現地法人		4,000	4,610	5,000
連結完工高(合計)			85,000	85,553	90,000

5) 損益計画

(単位:百万円)

下段は%	2012年度 計画	2012年度 実績	2013年度 計画
連結完工高	85,000	85,553	90,000
連結完工総利益	8,200 9.7%	8,056 9.4%	8,500 9.4%
販売費及び一般管理費	5,900 6.9%	5,825 6.8%	6,200 6.9%
営業利益	2,300 2.7%	2,230 2.6%	2,300 2.6%
経常利益	2,300 2.7%	2,457 2.9%	2,500 2.8%
当期純利益	1,100 1.3%	1,322 1.5%	1,400 1.6%

-以上-